

## 極短周期アンジュレータ光源による利用研究 2

KEK-PF 足立 純一

中規模リングにおいて高いエネルギーの放射光を得るため、短周期の真空封止型アンジュレータが実用化されている。このことが示すように、高性能リングで使用できる、より短い周期のアンジュレータを開発していくことは、質の高い放射光を得るための一つの方向性として期待できる。

ここでは、極短周期アンジュレータが実用化される時、それがコンパクトであることを活用して、cERL および 3GeV ERL で実現できる可能性がある、分光学的研究について紹介する。

1. 光電離ダイナミクスの基礎過程研究の展開
2. 光化学反応における遷移金属電子状態の時間分解研究の提案
3. 高速 2 次元 X 線コヒーレント相関分光法の紹介

紹介したような実験で必要となる光の実現性の詳細については、検討していない。ご議論いただきたい。